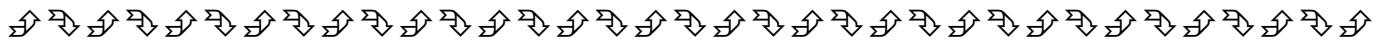


NPO 法人 白十字在宅ボランティアの会 発行(2008.12.2 発行人 加藤敦子)  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町2-7 ディアコート砂土原204  
TEL/FAX 03-5935-7708 E-Mail volunt-hakujuji@coast.ocn.ne.jp

記念すべき会報第1号をお届けしてから早や5ヶ月、すっかり季節は秋、を乗り越して冬の寒さがやって来ました。私もそろそろインフルエンザの予防接種に行かないと。毎年この時期に、予防接種で冬の到来を感じています。利用者さんも皆さまも、風邪などひかれませんように。



「ご協力ありがとうございました。」

## シンポジウム報告

日本財団の助成事業として5月・7月・9月の3回にわたり、新宿区内3箇所の区民ホールで開催しましたシンポジウム「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために～在宅ホスピスが実現できる地域づくりをめざして～」も、おかげ様で3回とも天候にも恵まれ、多くの方に足をお運びいただき、盛会のうちに終わることができました。このシンポジウムのことをご友人の方々に宣伝して下さった皆様、事前に掲示物や配布物の準備をお手伝い下さった皆様、当日の運営をお手伝い下さった皆様、有難うございました。

そもそも、この事業は、「在宅ホスピスに関するシンポジウムの開催により、地域で生活する市民や介護者、介護に関わる専門職者の不安を解消し、安心して生活できる地域ネットワークづくりを図る」ことを目的に企画されました。ホームヘルパーやケアマネジャーに在宅での最期に関わる上での不安をアンケート調査し、その意見を参考に、在宅福祉の担い手が分からないこと、不安に感じていることを解消するためのシンポジウムでもあり、その面から見ると、それら在宅福祉に関わるサービス提供事業者からの参加が少なかったのは残念なことでしたが、毎回、300人前後入るホールの半分を埋める数の参加者を得られたことは、大きな成果でした。在宅の現場にいる訪問診療をしている医師、訪問看護師の参加の他に、地域に出していく(退院)側の病院の医師や看護師、また、行政からの参加者が多かったことも特筆すべきことだったと思います。

(下)インターネットで医療や介護のニュースを配信している「CB ネット」に掲載された写真(コメントも)

土曜日の午後に行った5月と9月の回では、「地域づくり」の第一歩になればと、閉会後に懇親会を設けました。こちらにも予想を上回る大勢の参加があり、病院勤めの人、ヘルパーも、ケアマネジャーも、行政の人、マスコミの人、ボランティアも、様々な立場の人が一緒に「在宅」や「連携」について熱く語り合う濃密な時間を持つことが出来ました。「顔の見える関係」その糸が一本、また一本と繋がっていくのを感じられる、嬉しい時間でした。



在宅ホスピスのシンポジウム、「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために」では、会場からもさまざまな意見が出た

当日、会場にいらした方をお願いしたアンケートには、

以下のような意見・感想が寄せられました。

- 新宿の取り組みに感銘を受けた。長い時間をかけて築いてきた行動力と情熱に学びたい。
- 病院で働いていると在宅看護について考えることがないが、これを機に考えていきたい。
- 残された家族の思いを知り、大きな学びとなり今後の自分の看護に活かしたい。
- 社会資源や地域のネットワークの中で支えられて在宅で過ごす意識が高まれば地域で最後を迎えることも可能になると感じた。
- 遺族がよい看取りをしたと思えることにも在宅ホスピスは有用なのだということを感じた。
- 病院関係者も多く参加し、真摯な気持ちで医療や介護に携わってくれていることを知り、うれしかった。
- 具体的な見取りの状況、在宅ケアの問題点苦勞した点などを聞いたかった。
- ターミナルケアのよい面だけでなく、リスクの面もききたい。

最後の2つのご意見は、次回またこのような機会を企画した際に活かしたいと考えています。今回のシンポジウムでは、事前アンケートを通して、在宅福祉に従事する人たちの不安をうかがい知ることが出来、発表者との打ち合わせでは、あらためて家族の「思い」を知らされ、準備段階から様々な「気づき」を与えていただきました。年1回でも、このような機会を継続して持って行けたら、と考えています。

シンポジウムは終わりましたが、この後、在宅ホスピス啓蒙のためのリーフレットを作成する、という事業計画がまだ残っています。参考資料を集めたり、緩和ケア認定看護師から情報収集をしたり、準備を始めたところです。こちらにもご協力をお願いしたいと思っておりますので、その時はまた、どうぞ宜しくお願い致します。

また、現在、助成金申請をしている企画が2つあり、それは、「在宅福祉従事者のための終末期ケア講座」と「在宅ホスピスケア・ボランティア養成講座」です。

今回のシンポジウムは「啓蒙」でした。それをもう一步進めて、具体的な形に、地域の人的資源の養成につなげて行けたら、と考えています。

順次、ご報告して行きながら進めてまいりますので、こちらの方にも、ご協力をお願い致します。

日本財団 助成事業

「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために」  
～在宅ホスピスが実現できる地域づくりをめざして～

■ 日時：2008年9月20日（土）  
開場 13:30 開演 14:00（16:30 終了予定）  
会場：角筈区民ホール（新宿区西新宿 4-33-7）

□ 基調講演  
・ 松本 武敏（在宅ホスピス医・元国立がんセンター東病院）

□ 提 言  
・ 本下 朋雄（コンフォガーデンクリニック 院長）  
・ 坂野 麻子（白十字訪問看護ステーション 看護師）  
・ 西山 隆（和光市北地域包括支援センター ケアマネジャー）  
・ 在宅で看取りをされたご家族

□ パネルディスカッション【講演者・提言者とフロアの皆様】  
・ コーディネーター 秋山 正子  
（白十字訪問看護ステーション所長・白十字在宅ボランティアの会理事長）

■ 参加費：500円

■ 会場までのアクセス  
（京王バス）新宿駅西口から  
前都心循環バス  
「パークハイアット東京前」下車  
中野駅行または中野車庫前  
「十二社池の上」下車  
（京王線）「初台駅」より徒歩 10分  
（地下鉄）大江戸線「都立大」  
A5出口より徒歩 10分

■ 主催：NPO 法人白十字在宅ボランティアの会  
■ 後援：新宿区、岩ヶアース白十字訪問看護ステーション

申込み・問い合わせ先 NPO 法人白十字在宅ボランティアの会  
TEL：03-5935-7708/FAX：03-3268-1629

# 「聞き書き」に関する取り組み

NPO発足以降、ずっと続けてまいりました聞き書きボランティアの養成ですが、聞き書きボランティアの皆さんからの、『聞き書き』を知ってもらう機会があった方がいいのではないか?』との意見を受けて、9月9日に、広く「聞き書き」を知ってもらうための公開講座を行いました。

演題は『聞かせて下さい、あなたの人生。～「聞き書き」というボランティア～』講師は、当会ではお馴染みの小田豊二先生（作家・日本聞き書き学会講師）。晴天に恵まれた、とはいえ残暑厳しい中、37名の方が会場に足を運んで下さいました。

前半は、これまでの先生のご経験の中から、語り手から教えられたこと、聞き書きを通して変化した語り手・聞き手の関係、感動を共有するという聞き書きの醍醐味など、実例を挙げながら説明して下さいました。後半は、では実際に聞くと、書くときはどうするのか?方法や注意点を具体的にお教え頂きました。



参加者のアンケートからいくつかの感想、ご意見を紹介します。

「高齢者の話を聞くことは、とても勉強になると感じていたが、聞いて書くことは更に、話し手の歴史が生かされると今日の講演から学んだ。」「身近な人に聞き書きを早くやってみたいと思った。」「心の中がホンワリとして、とても暖かい気持ちになった。」「器用さと稽古と好きとそのうちで、好きこそものの上手なりけり」がとても良い言葉だと思った。」「小田先生の話が、一つの物語（舞台）を見ているようだった。」「先生のお話で、自分が何をすべきか、少し方向が見えそう。」など。

その他、もっと聞きたかったことは?との問いに対しては、失敗談や、語り手との関係が上手くいかなかった時の対処法は?作成した冊子が気に入らない、ということがない為には、どうすればよいのか?など、活動することを想定しての不安とも受け取れるような質問が書かれていました。

今回の公開講座は、「聞き書き」という活動を知って欲しい、との思いから開催したのですが、アンケートの最後に、「聞き書きボランティアをやってみたいと思いましたが?」と聞いています。アンケートの回収数は27でしたが、「是非、やってみたい」と回答した人は5名、「今後考えてみたい」と答えた人16名、「ちょっと自信がない」人3名、その他に「まだ考えていない」「時間と自分の気持ちに余裕ができたなら」

と書かれた方が2名いらっしゃいました。

これを受けて、10月中旬から「聞き書きボランティア養成講座」を開講しています。受講生は6名ですが、そのうち4名の方がこの公開講座に来られた方でした。

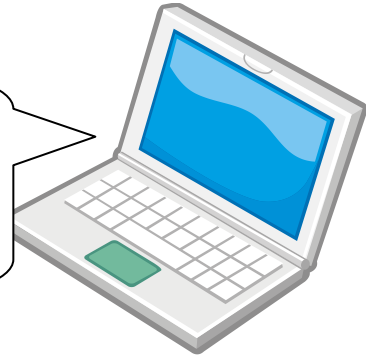
今後も「聞き書き」を通じて、沢山の人の輪が広がっていくことを予感できるひとときでした。





# お知らせ

ホームページが  
OPENしました!!



当会のホームページが開設されました。構築中、という感じで、内容はこれから充実させていきたいと考えています。講座やボランティア・サロンなどの案内や、ボランティア情報なども、ホームページからどんどん発信して行きたいと思っておりますので、どうぞ覗いてみて下さい。

ホームページでは、白十字訪問看護ステーションについても、知ることが出来るようになってきました。また、30年後の医療の姿を考える会(会長 秋山正子)の書籍を出版している to be 出版のホームページも、リンクが張られています。

管理はプロをお願いしていますが、載せる題材はこちらで作って送ります。皆さまからも告知したい催しなどございましたら、事務局までご連絡ください。

ホームページはこちら…

<http://www.hakujuji-net.com/>

ボランティアさんからの生の声もお届けできたら、と考えております。今後、レポートの依頼をさせて頂くと思っておりますので、その時は、「待ってました！」とお引受けいただけると、助かります。

また、ボランティアをやっていて出会う「ちょっといい話」なども、メールで結構ですのでお寄せ頂けますよう、お願い致します。今流行りの「深イイ話」でなくても、笑える話、泣ける話、問題提起、などなど、お待ちしております。

事務局からも、定期的に更新をして、新しい情報などを次々発信して行けるように、頑張ります！！沢山の人が訪れてくれるホームページ作りに、どうぞご協力ください。

# 来年に向かって

来年に向けて動き出している企画をいくつか、ご案内いたします。まだ、どうなることや未定のものもありますが、これから準備を始めてまいりますので、こちらについてもご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

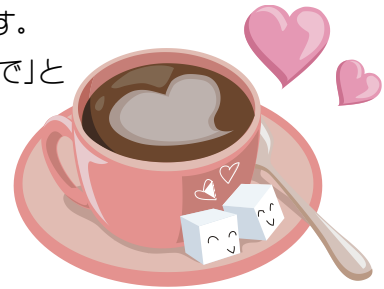
## ボランティア・サロンを毎月開きます。

これまでも、不定期ながら開催してきた「サロン」ですが、来年からは本来の目的に立ち戻り、フリースペースとしての機能を存分に発揮できるよう、毎月第〇△曜日の午後、というように日時を決めて、場所を解放したいと思っています。

ボランティア相互の交流や情報交換の場として、そして、介護中のご家族にも、それが終わったご家族にも来てもらえる、そんな場にして行きたいと思っています。

看取られた後に、「何をするのも面倒臭くて」「出かけるのが億劫で」とよく耳にします。そんな人たちの“きっかけ”になったら素敵ですね。

白十字訪問看護ステーションでは、亡くなられた後、四十九日を迎える頃にグリーフケアに伺っています。その時に、さりげなく渡せるようなご案内を作って、持って行ってもらう予定です。



## 終末期をサポートする「人」の養成講座

現在申請中の助成金事業を二つご報告します。1つは「在宅福祉従事者のための終末期ケア講座」。もう1つは「在宅ホスピスケア・ボランティア養成講座」です。

今年、在宅ホスピスについてのシンポジウムを開いてみて、在宅福祉に関わる人が抱えている様々な悩みや、「こうしてあげたいのに」という思い・情熱などを知ることが出来ました。それをより具体的な方法でサポートしたい、と考えて企画したものです。

後者は、聞き書きボランティアを通して、一人の方の在宅での死に関わることが出来た経験から、在宅で亡くなる方に、ボランティアももっと関われることを実感しました。ボランティアだから出来ることも沢山ありそうです。

どちらも、終末期の体や心の変化、スピリチュアルなケア、制度で出来ること・出来ないことなどの知識と、ちょっとした実技も入れた講座にできるよう企画を練って行きたいと考えています。



聞き書きボランティアの養成も継続して行きますが、来年は大学生に向けて「聞き書き」を発信してみたいと思っています。企画を実現するためには、準備からお手伝いを頂けるボランティアさんあってのこと、皆さま、どうぞ宜しくお願いします。

# 今後の予定 (12月~2月)

※日程変更の可能性あり、参加希望の方は確認のお電話をいただくと幸いです。

12月 7日(日) 13:00~17:00 NPO事務所

ボランティア・サロン…お手玉づくりをします。カエルづくりを教えて下さったボランティアさん再登場。

\*

1月 24日(土) 13:00~17:00 NPO事務所

ボランティア・サロン…のんびりお茶を飲みましょう! 手芸の道具や、工作、折り紙、パソコンも解放しますよ!!

\*

2月 8日(日) 14:00~16:30 聖路加看護大学アリス・C・セントジョン・

メモリアルホール

30年後に医療の姿を考える会との共催で、毎年恒例の市民公開シンポジウムを開きます。

テーマは現在検討中。追ってご案内致します。

\*

2月 21日(土) 13:00~17:00 NPO事務所

ボランティア・サロン…皆さんからの持ち込み企画也大歓迎です!!

## 掲示板

### ハギレを集めています。

- ボランティア・サロンで作っている「無事カエル」「お手玉」はハギレで作れます。特にお手玉は正絹で作ると、とってもオシャレ。皆さんのお宅に眠っている要らないハギレがございましたら、事務局に送って頂けないでしょうか?
- 白十字訪問看護ステーションでもハギレを求めています。利用者さんのケアに使用します。なので、綿など吸水性のよい布、とても良いのはボロのシャツなど。そろそろ捨てようかな?というシャツがあったら、是非こちらまで。

### パソコンサポートの希望はありますか?

聞き書きに取り組んでいる方を中心に、パソコン操作の疑問を解消する集まりを不定期に開催しています。ご要望は遠慮なく事務局まで。

## 編集後記

あっという間にもう師走ですね。皆様の一年はいかがでしたか? 先日、あるボランティアさんと話していて、もう2、3年ここで活動しているようだと言われました。そのくらい“濃い”1年間だったようです。ボランティアさんとの沢山の新しい出会いと、利用者さんとの沢山の別れ…しかし、ボランティア活動を通して、利用者さんがその周囲に居る沢山のひととの出会いを作って下さいました。来年はこの出会いを、更に育てていく年にしたいですね。来年もどうぞ宜しくお願い致します。皆さま、よいお年を。

事務局 加藤敦子